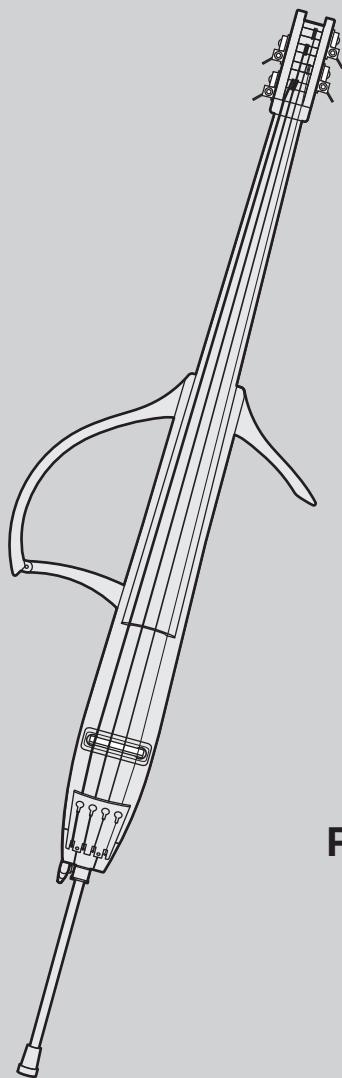




SILENT *Bass*™



**SLB300 PRO
SLB300**

取扱説明書
Owner's Manual
Benutzerhandbuch
Mode d'emploi
Manuale di istruzioni
Manual de instrucciones
Manual do Proprietário
Руководство пользователя
사용설명서
使用说明书

JA EN DE FR IT ES PT RU KO ZH

日本語

English

Deutsch

Français

Italiano

Español

Português

Русский

한국어

中文

安全上のご注意

ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様やほかの方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

お子様がご使用になる場合は、保護者の方が以下の内容をお子様にご徹底くださいますようお願ひいたします。お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

■ 記号表示について

この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。



注意喚起を示す記号



禁止を示す記号



行為を指示する記号

■ 「警告」「注意」「注記」について

誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を区分して掲載しています。

⚠️ 警告

「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。

⚠️ 注意

「傷害を負う可能性が想定される」内容です。

ご注意

「故障、損傷や誤動作、データの損失の発生が想定される」内容です。

⚠️ 警告

分解禁止



この製品の内部を開けたり、内部の部品を分解したり改造したりしない。

禁

感電や火災、けが、または故障の原因になります。

電池



電池を分解しない。

電池の中のものに触れたり目に入ったりすると、化学やけどのおそれがあります。

電池を火の中に入れない。

破裂するおそれがあります。

使い切りタイプの電池は、充電しない。

充電すると液漏れや破裂の原因になります。

電池を金属製のネックレスやヘアピン、コイン、鍵などと一緒に持ち運んだり、保管しない。

電池がショートし、発熱、破裂、火災のおそれがあります。

指定(8ページ)以外の電池を使用しない。

火災、発熱、液漏れの原因になります。

電池は子供の手の届くところに置かない。

お子様が誤って飲み込むおそれがあります。また、電池の液漏れなどにより炎症を起こすおそれがあります。

電池が液漏れした場合は、漏れた液に触れない。

失明や化学やけどのおそれがあります。万一液が目や口に入ったり皮膚についたりした場合は、すぐに水で洗い流し、医師にご相談ください。

水に注意



本体の上に花瓶や薬品など液体の入ったものを置かない。また、浴室や雨天時の屋外など湿気の多いところで使用しない。

内部に水などの液体が入ると、感電や火災、または故障の原因になります。入った場合は、すぐに電源スイッチを切り、お買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。

火に注意



本体の上にろうそくなど火気のあるものを置かない。

ろうそくなどが倒れたりして、火災の原因になります。



必ず実行

複数の電池を使う場合、同じメーカーの同じ種類、同じ品番の新しい電池を使用する。種類やメーカー、品番の異なる電池と一緒に使用したり、新しい電池と古い電池と一緒に使うと、火災、発熱、液漏れの原因になります。

電池はすべて+/-の極性表示どおりに正しく入れる。

正しく入れていない場合、発熱、火災、液漏れのおそれがあります。

長時間使用しない場合や電池を使い切った場合は、電池を本体から抜いておく。

電池が消耗し、電池から液漏れが発生し、本体を損傷するおそれがあります。

充電式ニッケル水素電池を使用する場合は、電池の取扱説明書の指示に従う。

電池に付属の取扱説明書をよく読んで、正しくご使用ください。また、充電池の充電は、必ず専用の充電器をご使用ください。専用器以外を使用すると、電池が発熱、液漏れ、破裂するおそれがあります。

異常に気づいたら



必ず実行

下記のような異常が発生した場合、すぐに電源スイッチを切り、電池を本体から抜く。

- ・製品から異常ににおいや煙が出た場合
- ・製品の内部に異物が入った場合
- ・使用中に音が出なくなった場合
- ・製品に亀裂、破損がある場合

そのまま使用を続けると、感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げの販売店または別紙のヤマハ修理ご相談センターに点検や修理をご依頼ください。

取り扱い



必ず実行

可動部を動かす際、指や手などをはさまないよう、充分注意する。

けがをするおそれがあります。

付属ソフトケースについて



本製品を肩に掛けた状態で、自転車やオートバイなどには乗らない。

転倒などの事故につながるおそれがあります。



注意

組み立て/分解



必ず実行

本書の組み立て方の説明をよく読み、手順どおりに組み立てる。また、定期的にネジやボルトを締め直す。

楽器が破損したりお客様がけがをしたりする原因になります。

運搬/設置



必ず実行

本体を移動するときは、必ず接続ケーブルをすべて外した上で行なう。

コードをいためたり、お客様やほかの方々が転倒したりするおそれがあります。



禁止

不安定な場所に立てない。

床に寝かせて置いてください。機器が転倒して故障したり、お客様がけがをしたりする原因になります。



必ず実行

楽器の移動の際は、ネックとベース本体ボディを持つ。

側板ユニットのみを持って楽器を持ち上げると、側板ユニット故障の原因となります。

接続



必ず実行

すべての機器の電源を切った上で、ほかの機器と接続する。また、電源を入れたり切ったりする前に、機器のボリュームを最小小にする。

感電、聴覚障害または機器の損傷の原因になります。



必ず実行

演奏を始める前に機器のボリュームを最小にし、演奏しながら徐々にボリュームを上げて、適切な音量にする。

聴覚障害または機器の損傷の原因になります。

取り扱い



本体のすき間に手や指を入れない。また、側板ユニットやオプション品の取り付け時に指などをはさまないように注意する。

お客様がけがをするおそれがあります。



本体の上にのつたり重いものをのせたりしない。また、ボタンやスイッチ、入出力端子などに無理な力を加えない。

本体が破損したり、お客様やほかの方々がけがをしたりする原因になります。



小さな部品は、乳幼児の手の届くところに置かない。

お子様が誤って飲み込むおそれがあります。



大きな音量で長時間使用しない。

聴覚障害の原因になります。万一、聴力低下や耳障りを感じた場合は、専門の医師にご相談ください。



弦の先は鋭利になっています。指に刺したりしないように気を付けてください。

必ず実行



弦の交換や調整の際、顔を楽器に近づけすぎない。

必ず実行

不意に弦が切れて目を傷つけるなど、思わぬのが原因となることがあります。

付属ソフトケースについて



本製品のケースやケースストラップをむやみに振り回さない。

思わぬ事故につながるおそれがあります。

- 不適切な使用や改造により故障した場合の保証はいたしかねます。

使用後は、必ず電源を切りましょう。

本製品を廃棄するときは、地方自治体の条例に従って処理してください。詳しくは、各地方自治体にお問い合わせください。

使用済みの電池は、各自治体で決められたルールに従って廃棄してください。

DMI-7 3/3

ご注意(ご使用上のご注意)

製品の故障、損傷を防ぐため、以下の内容をお守りください。

■ 製品の取り扱いに関する注意

- 直射日光のある場所(日中の車内など)やストーブの近くなど極端に温度が高くなるところ、逆に温度が極端に低いところ、またほこりや振動の多いところで使用しない。
本体や、本体のパネルが変形したり内部の部品が故障したりする原因になります。
- テレビやラジオ、スピーカーなど他の電気製品の近くで使用しない。
デジタル回路を使用しているため、テレビやラジオなどに雑音が生じる場合があります。
- 本体を手入れするときは、ベンジンやシンナー、洗剤、化学ぞうきんなどは絶対に使用しない。また、本体上にビニール製品やプラスチック製品などを置かない。
本体が変色/変質する原因になります。お手入れは、柔らかい布で乾拭きしてください。

■ 付属ソフトケースについて

- ソフトケースに本製品以外の機器を収納しない。
- ソフトケースに本製品を収納した状態で、落としたり強い衝撃を与えない。
本製品が破損する原因になります。
- 直射日光のある場所(日中の車内など)やストーブの近くなど極端に温度が高くなるところに保管しない。
変色/変質する原因になります。
- 薬品や油類の近くに置かない。
変質の原因になります。
- 破れたり裂けたりした状態で使用しない。

■ お知らせ

- この取扱説明書に掲載されているイラストは、すべて操作説明のためのものです。実際の仕様と異なる場合があります。

機種名(品番)、製造番号(シリアルナンバー)、電源条件などの情報は、製品のリアパネルにある銘板または銘板付近に表示されています。製品を紛失した場合などでもご自身のものを特定していただけるよう、機種名と製造番号については以下の欄にご記入のうえ、大切に保管していただくことをお勧めします。

機種名

製造番号

(rear_ja_02)

ごあいさつ

このたびはヤマハ『サイレントベース™』をお買い求めいただき、まことにありがとうございます。

SLB300シリーズは、静謐性と可搬性を重視したセミソリッドボディ構造でありながら、『コントラバスのボディ共鳴音を高品位なマイクロфонを使ってスタジオ録音したサウンド』をシミュレートするSRT POWEREDシステムによって自然な音と響きを実現した、全く新しいタイプのエレクトリックアップライトベースです。また、SLB300 PROは上質な外観の追求のみならず、厳選されたパーツによって自然な音の響きと演奏性を最大限まで高めたハイエンドモデルです。

製品の機能を十分に活用するために、この取扱説明書をよくお読みになってからご使用ください。

なお、ご一読いただいた後も、不明な点が生じた場合に備えて、保証書と共に大切に保管していただきますようお願い申し上げます。

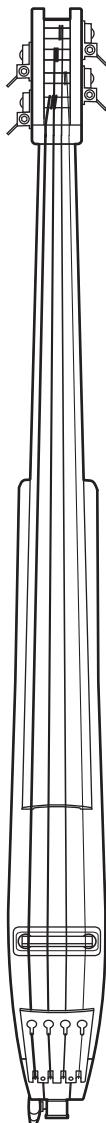
目次

ごあいさつ	5
同梱品（お確かめください）	6
各部の名称	7
フロント部	7
リア部	7
電池ケース / 外部出力 (LINE OUT) 端子	8
コントロール部	8
演奏準備	11
調弦について	11
側板ユニットの取り付け	13
エンドピンについて	14
オプション部品の取り付け	14
電源の準備（電池交換方法）	15
接続例	16
電源の入れ方と切り方	17
ミュートについて	17
弦交換方法	18
ソフトケースへの収納	20
仕様	21

同梱品(お確かめください)

パッケージを開けたら、本体および付属品を確認してください。

● 本体×1



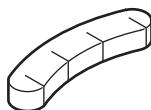
● 側板ユニット×1



● エンドピン×1



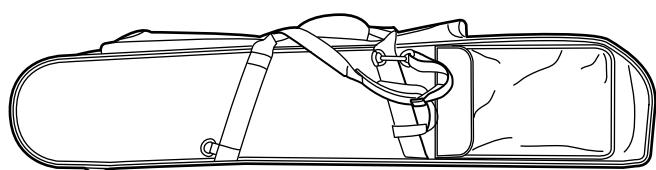
● ミュート×1



● 六角レンチ×1



● ソフトケース×1



● 取扱説明書(本書)×1

● サービス拠点リスト ×1

※本製品をご使用になるには、単3形乾電池(アルカリまたはニッケル水素)2本が必要です。

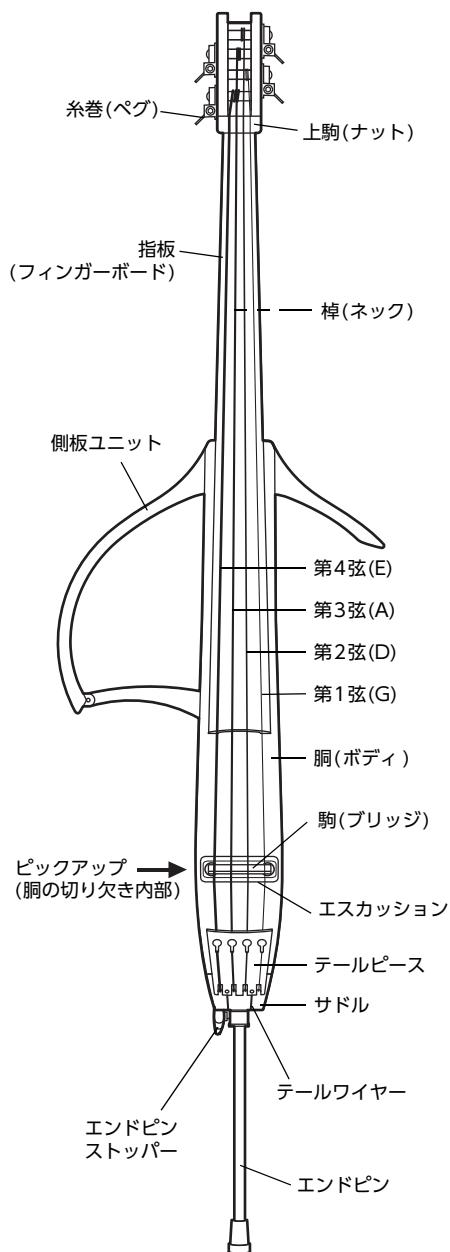
オプション部品の紹介

- ・サイレントベース™用スタンド(BST1)
- ・サイレントベース™用ひざ当て(BKS2)
- ・サイレントベース™用延長フレーム(BEF2)

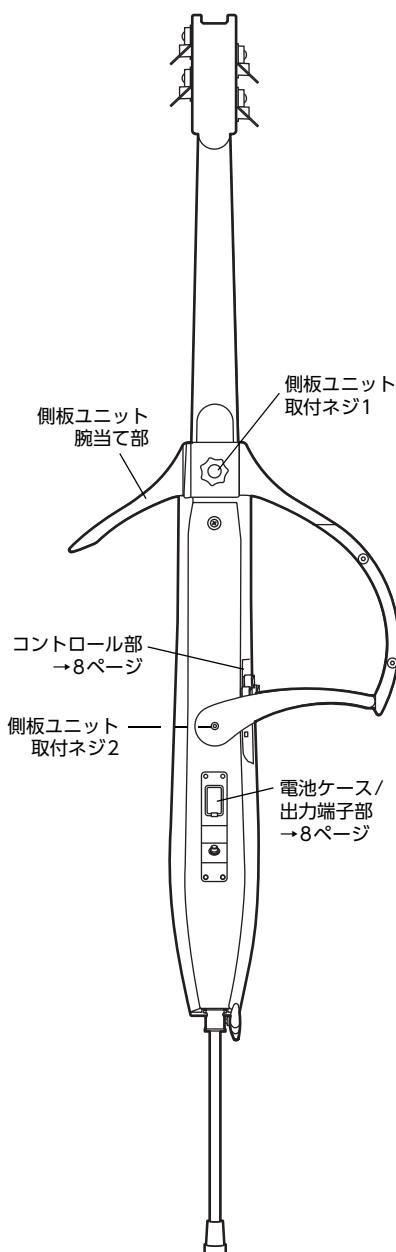
上記オプション部品をお求めの場合は、販売店にご相談ください。

各部の名称

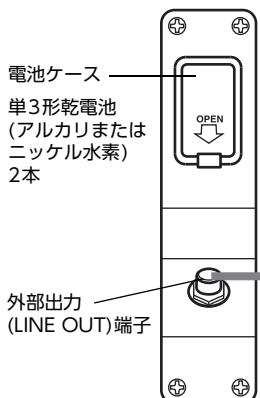
■ フロント部



■ リア部



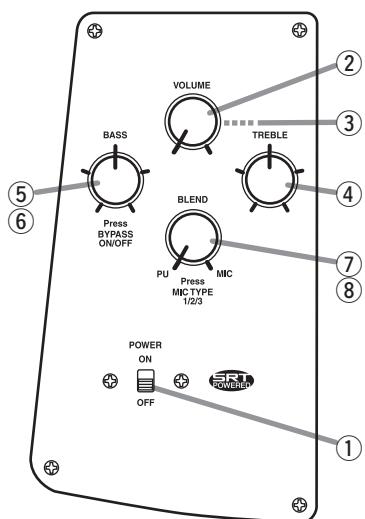
■ 電池ケース/外部出力(LINE OUT)端子



ご注意

- 本製品のLINE OUT端子にヘッドフォンを接続しても音は出ません。
- LINE OUT端子への接続は、必ずモノラルの標準フォーンプラグケーブルを使用してください。

■ コントロール部



①[POWER](電源スイッチ)

サイレントベース内蔵SRT POWEREDプリアンプの電源をオンオフするスイッチです。

NOTE

- LINE OUT端子にプラグ(ケーブル)が挿された状態の時だけ電源がオンになる仕様です。LINE OUT端子にプラグが挿されていない状態の時は、電源スイッチの位置に関わらず電源はオフになります。
- LINE OUT端子にプラグ(ケーブル)が挿された状態で、電源スイッチがオフの時は、ピエゾピックアップの信号がLINE OUT端子に直接出力されます(パッシブ出力)。パッシブ出力は、電池がない緊急の場合や、プリアンプ等の外部機器で音作りをする場合に使います。
- パッシブ出力時は電源がオフのため、SRT POWEREDプリアンプは動作しません。コントロールパネル上の操作子も、電源スイッチ以外はすべて無効となります。

[電源スイッチ、LINE OUT端子状態対応表]

		電源スイッチ	
		ON	OFF
LINE OUT端子	プラグ差込あり	電源オン SRT POWEREDプリアンプ動作	電源オフ パッシブ出力
	プラグ差込なし	電源オフ 非動作	

NOTE

- 電源スイッチがオフのパッシブ出力を使用している状態では、接続ケーブルの長さに比例して信号出力が減衰します。電源スイッチがオンの SRT POWERED プリアンプを使用している状態では、ケーブル長による信号出力への影響はほとんどありません。

ご注意

- 電源のオンオフは、接続したアンプや、パワードスピーカーなどの出力ボリュームを絞りきるか、電源をオフにした状態でおこなってください。

② [VOLUME](ボリュームコントロール)ノブ

音量を調節します。

③ 状態表示LED (ボリュームコントロールノブの直下)

バイパス(BYPASS)機能、SRT POWERED マイクタイプ、電池残量などの情報を表示します。LEDの状態は、ノブに対して斜め方向(演奏する姿勢)から確認します。

	オレンジ	緑	赤
電源スイッチをオン	マイクタイプに応じて点滅	—	—
マイクタイプ1への切替 および選択状態確認時	1回点滅	—	—
マイクタイプ2への切替 および選択状態確認時	2回点滅	—	—
マイクタイプ3への切替 および選択状態確認時	3回点滅	—	—
バイパス中	—	点灯	—
電池切れ警告	—	—	点滅

④ [TREBLE](トレブルコントロール)ノブ

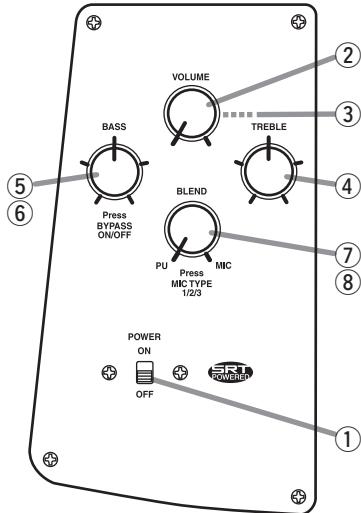
高音域(TREBLE)のレベルを調整します。本製品に最適化した特徴的な音域をピーキングで増幅または減衰できます。

- 右に回すと音にエッジが立ち、バンドの中で埋もれにくい硬質なサウンドになります。
- 左に回すと柔らかく弓弾きに適した自然なサウンドになります。

⑤ [BASS](ベースコントロール)ノブ

低音域(BASS)のレベルを調整します。主に3弦～4弦の基音周波数領域をピーキングで増幅または減衰できます。

- 右に回すとボトムが増強され、ふくよかなサウンドになります。
- 左に回すとボトムが削られ、他の低音楽器と競合しないスッキリしたサウンドになります。



⑥[BYPASS](バイパス)ボタン

SRT POWEREDプリアンプの[VOLUME](ボリュームコントロール)以外のコントロールすべてをバイパスするボタンです。このボタンで、加工されたSRT POWEREDサウンドと未加工の信号出力を瞬時に切り替えることができます。バイパス機能が有効な間は、⑥のLEDが緑色に点灯します。

NOTE

- ・アクティブ出力のまま未加工の音を出したい場合は、電源スイッチをオンにした状態で、バイパス機能を使います。

⑦[BLEND](ブレンドコントロール)ノブ

ピックアップからの信号とシミュレートしたマイク信号のミックス量を調整します。左いっぱいに回すとピックアップからの信号が100%になります。右いっぱいに回すとシミュレートしたマイク信号が100%になります。

⑧ [MIC TYPE](マイクタイプ切替)ボタン

SRT POWEREDシステムでシミュレートするマイクのタイプを選択します。マイクタイプ切替ボタン(BLENDコントロールツマミ)を状態表示LEDが点滅するまで押し続けることで、マイクタイプを切り替えます。マイクタイプは、マイクタイプ1⇒マイクタイプ2⇒マイクタイプ3⇒マイクタイプ1の順に切り替わります。短く押した場合は、点滅回数で現在選択中のマイクタイプを確認できます。

●マイクタイプ1 : Rich

定番ヴィンテージ真空管マイクによるバランス良く濃密なサウンド

●マイクタイプ2 : Simple

ダイナミックマイクによる抜けの良いスッキリとしたサウンド

●マイクタイプ3 : Warm

1とは異なる真空管マイク名機による低域寄りで温かみのあるサウンド

演奏準備

■ 調弦について

出荷時、サイレントベース™の弦は通常の調弦状態よりゆるめてあります。

駒の高さは標準的な高さに調整してあります。駒の位置は輸送中にずれる場合もありますので、正しい位置に調整してから、調弦してください。

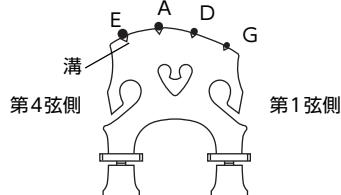
- 駒は上部の山が低い方が第1弦(G)側、高い方が第4弦(E)側です。横から見て大きくカーブしている面が、指板側(演奏時に上側)になります。【図1】

- 駒の正しい位置は、テールピース側の駒の面が、駒の乗る胴の面に対して垂直になるところです。

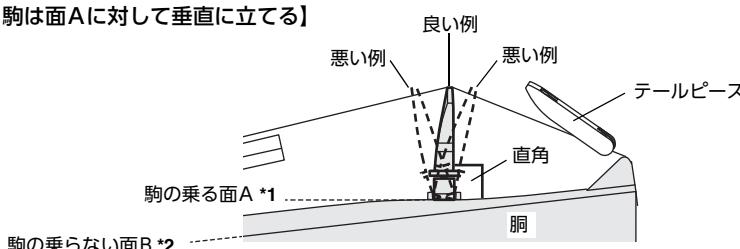
【図2】

駒の脚の側面がエスカッッシュョン(プラスチックの部品)に接触しない位置に配置してください。

【図1：テールピース側から見た図】



【図2：駒は面Aに対して垂直に立てる】

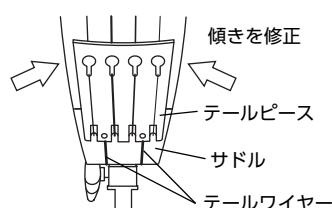


*1 駒の垂直は、駒の乗る面Aに対して確認します。

*2 駒の乗らない面Bと、駒の乗る面Aは平行ではありません。駒の乗らない面Bは、駒との垂直の確認に使えません。

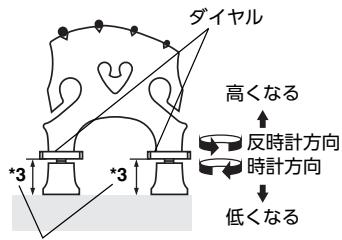
駒が傾いている場合の調整

- 調弦後、駒のテールピース側の面が、駒の乗る面に対して垂直になっていることを確認します。傾いている場合は弦を少しゆるめてから、駒を両手でそっと起こします。
- 調弦後、正面から見てテールピースが傾いている場合は、すべての弦を少しゆるめてから、テールピースがまっすぐになる様に手で直します。その後、すべての弦の張力をなるべく均等に上げていき、調弦し直します。



- サイレントベース™の駒は、高さを調整することができます。金属製のダイヤルを時計方向に回すと低くなり、反時計方向に回すと高くなります。
- 【図3】**

【図3：駒高さの調整】

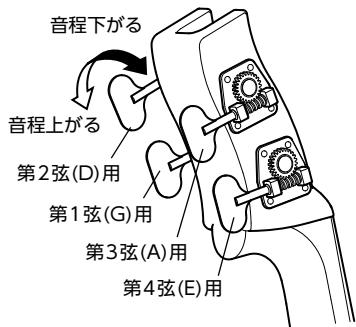


*3 同じ高さに調整します。

ご注意

- 駒の高さは、必ず弦をゆるめて、ダイヤルを回すのに大きな力が必要ない状態にしてから調整してください。弦の張力が通常のままで、無理にダイヤルを回すと、駒や弦などの損傷の原因となります。
- 駒は、両方の脚の高さが必ず同じになるように調整してください。両方の脚の高さが違う状態で弦の張力を上げると、駒の底面が正しく接地せず、音質劣化や雑音、駒の損傷などの原因となります。(図3. *3)

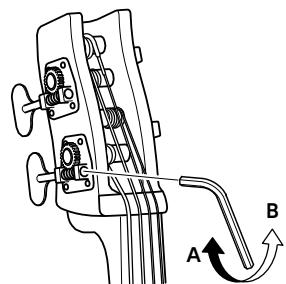
- 調弦は、第1弦がG音、第2弦がD音、第3弦がA音、第4弦がE音です。ピアノや音叉、チューナーなどの音に合わせて、糸巻を回してチューニングします。



● 糸巻のトルク調整

付属の六角レンチを使って、糸巻の回転トルクを調整できます。

- トルクが弱く、軽い接触などでツマミが回ってしまう場合
→ 調整ネジを右(時計方向 : A)に回す。
- トルクが強く、チューニングがスムーズにできない場合
→ 調整ネジを左(反時計方向 : B)に回す。



■ 側板ユニットの取り付け

出荷時、側板ユニットはサイレントベース™本体から外してあります。

本製品を使用する前に、以下の手順で側板ユニットを本体に正しくセットしてください。



側板ユニットの上部腕当て部やアーム部を動かす際、指や手などをはさまないよう、充分注意してください。

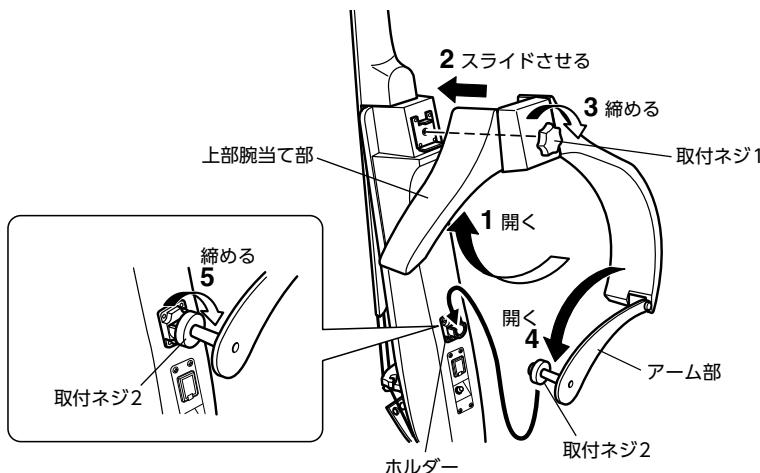
警告！

[取り付け手順]

1. 側板ユニットの上部腕当て部を、ストッパーが当たるところまで開きます。
2. 側板ユニットの「取付ネジ2」が付くアーム部を閉じた(はね上がった)状態で、側板ユニット上部のくぼみを下図の「2 スライドさせる」の向きにゆっくりとスライドさせます。
3. 「取付ネジ1」を締め付けます。
4. アーム部を反時計方向に回転させて開き、「取付ネジ2」部をベース本体のホルダーに挿入します。
5. 「取付ネジ2」ネジを締め付け、ベース本体に固定します。

これで、側板ユニットの取り付けは完了です。

取り外す場合は、上記と逆の手順でおこなってください。



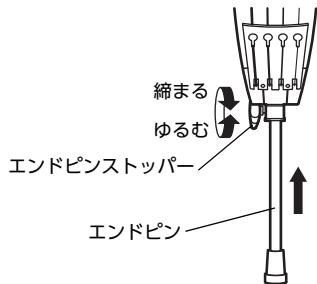
楽器を移動する際は、ネックとベース本体ボディを持ってください。側板ユニットのみを持って楽器を持ち上げると、側板ユニット故障の原因となります。

ご注意

- 取付ネジ1, 2は確実に締めてください。ゆるんだ状態で使うと、演奏時にガタついたり、雑音が発生したりする原因となります。

■ エンドピンについて

出荷時、エンドピンはベース本体とは別にソフトケース内に収納されています。使用する前にエンドピンストッパーをゆるめ、エンドピンを挿入し、演奏しやすい高さの位置でエンドピンストッパーをしっかりと締めて固定します。



ご注意

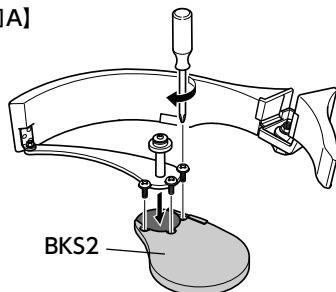
- ・演奏中に楽器が落下しないよう、エンドピンストッパーは確実に締めて固定してください。
- ・エンドピンは最適な演奏性を実現する為に、ベース本体に対して斜めに取り付けられており、奥まで挿入することができません。無理に挿入しようとしたり、衝撃を与えるとベース本体内部が破損するおそれがあります。エンドピンの出し入れはゆっくりとていねいにおこなってください。

■ オプション部品の取り付け

[サイレントベース™用ひざ当て(BKS2)]

サイレントベース™用ひざ当て(BKS2)は、スツールなどに腰掛けて演奏する際に、左ひざで楽器を支えるためのオプション部品です。右図Aのように、ひざ当てのくぼみに合わせて側板ユニットの金属部分をあてがい、3ヶ所のネジをガタつきがないようにしっかりと締め付けて固定します。

【図A】

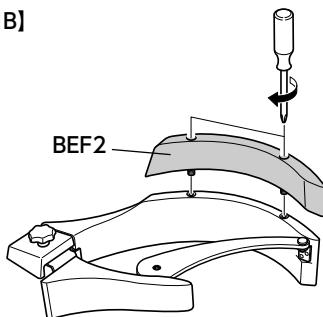


[サイレントベース™用延長フレーム(BEF2)]

サイレントベース™用延長フレーム(BEF2)は、側板ユニットの幅を延長して、楽器をより支えやすくするためのオプション部品です。

右図Bのように、2ヶ所のネジをガタつきがないようにしっかりと締め付けて固定します。

【図B】



ご注意

- ・オプション部品の取り付け/取り外しは、側板ユニットをベース本体から取り外して安定した場所に置いた上でおこなってください。
- ・演奏の前に、オプション部品の取り付けにガタつきがないか確認してください。

■ 電源の準備(電池交換方法)

サイレントベース™は、電源として乾電池を使用します。

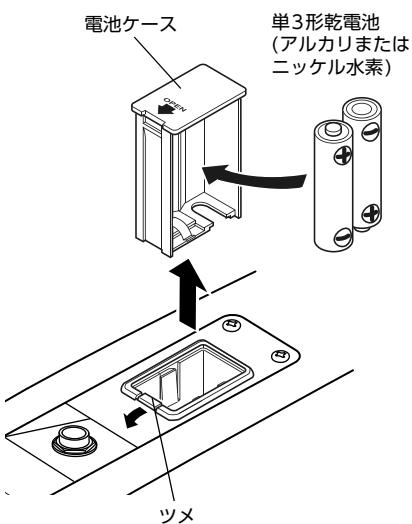
乾電池の出し入れをする前に、出力端子からケーブルを抜いてください。

1. 本体裏面にある電池ケースの、“OPEN”の矢印方向にツメを押し下げるとき電池ケースが出てきます。

ご注意

- 電池ケースを取り出す際は、電池ケースが飛び出さない角度に、楽器本体を傾けてください。

2. 乾電池をケースに入れます。イラストを参考に、向きと極性(+/-)を間違えないように入れます。
3. 電池ケースをパチンと音がする所まで完全に押し込みます。



● 電池交換のタイミング

- 電池残量が少なくなると、状態表示LEDが赤く点滅します。早めに電池を交換してください。
- ニッケル水素電池の場合は、その放電特性により、赤く点滅する前に電源がオフになることがあります。



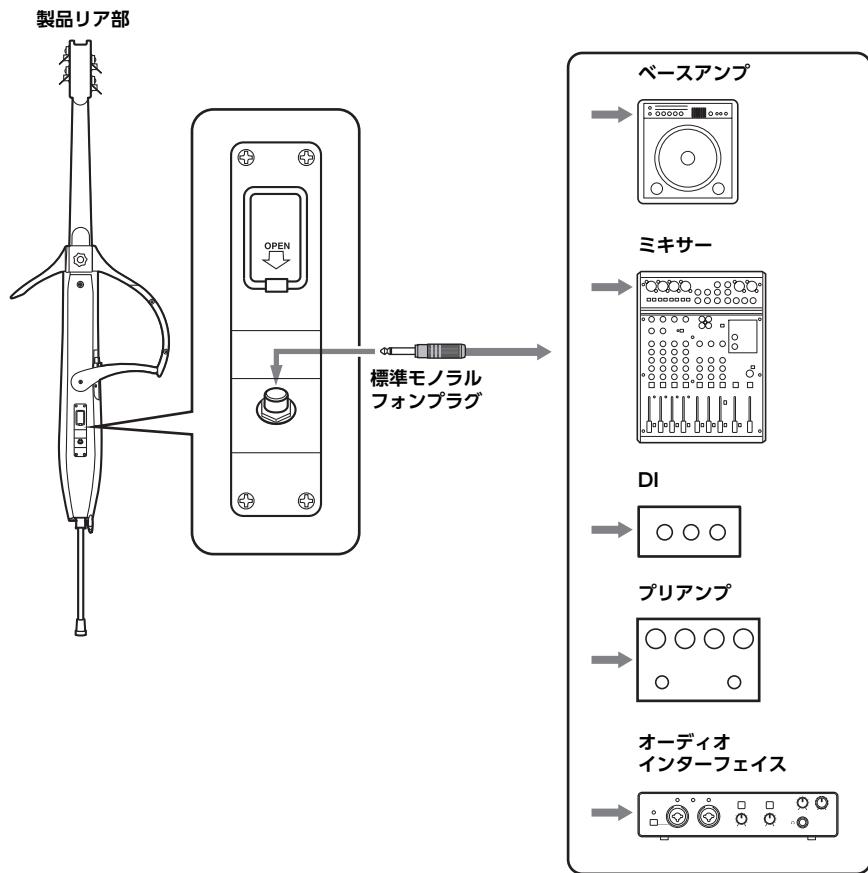
以下に注意して乾電池を交換してください。

- 電池の形状(電池端子および外形形状等)は、電池メーカーにより異なります。電池ケースと異なる形状の電池を挿入した場合、本体を破損するなどのおそれがあります。また、挿入できても端子との接触不良により、発火するおそれがあります。
- 乾電池は+/-の極性表示どおりに正しく入れてください。正しく入れていない場合は、発火するおそれがあります。
- 長期間使用しない場合は、乾電池を本体から抜いておいてください。乾電池が消耗し、液漏れにより本体を損傷するおそれがあります。

■ 接続例

下記の接続例を参考にして、本製品と外部機器を接続します。

- 接続は、すべての機器の電源を切った状態でおこなってください。
- 接続は、接続端子の形状を確認し、必ず端子の規格に合ったプラグのケーブルを使い、確実に接続してください。



* イラストや図面はすべて操作説明のためのものです。実際の仕様と異なる場合があります。

■ 電源の入れ方と切り方



本製品のLINE OUT端子にプラグ(ケーブル)が挿された状態で、[POWER](電源スイッチ)を上方向に操作することで電源をオンに、下方に向に操作することで電源をオフにします。電源をオンにすると状態表示LEDが点滅します(9ページ)。

NOTE

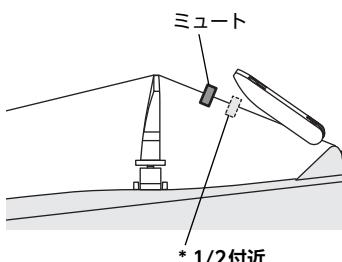
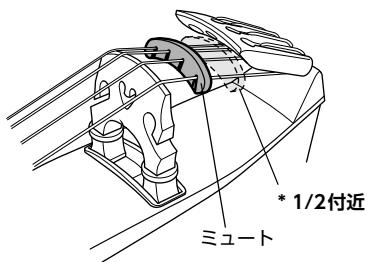
- 電池の消耗を抑えるため、使用後は必ず電源スイッチをオフにしてください。または、ケーブルを抜いてください。
- 電源スイッチをオフ(パッシブ出力)にして、パッシブ出力に対応した外部機器に接続することで、電池がなくても使用できます。外部機器を使用する際は、 10Ω 以上の入力インピーダンスを持つ機器(DI等)に接続してください。接続する機器の入力インピーダンスが指定値より低いと、十分な出力や周波数特性が得られない場合があります。

ご注意

- 本製品や外部機器の故障やノイズを防ぐために、電源スイッチのオンオフと接続の順番にご注意ください。
電源スイッチのオフと接続の順番(例)
 - PA等出力先機器の、本製品が接続されているチャンネルのレベルを下げる。
 - 本製品の電源スイッチをオフにする。
 - 本製品とPA等出力先機器との接続を外す。
 - 本製品とPA等に接続済みのDI等を接続する。
 - PA等出力先機器の、DI等が接続されているチャンネルのレベルが下がっていることを確認する。
 - DI等のスイッチを入れる。
 - PA等出力先機器の、DI等が接続されているチャンネルのレベルを上げる。

■ ミュートについて

ヤマハサイレントベース™は、楽器の構造上、駒とテールピース間の弦振動をピックアップが拾い、余音として残る場合があります。その音が気になる場合は、付属のミュートを下図のような位置に取り付けてください。



* 駒とテールピース間の1/2付近の位置にミュートを取り付けると、ミュート効果は減少します。

弦交換方法

弦は、弦長1,040mm(41インチ)に適合する、市販のコントラバス用弦を使用します。



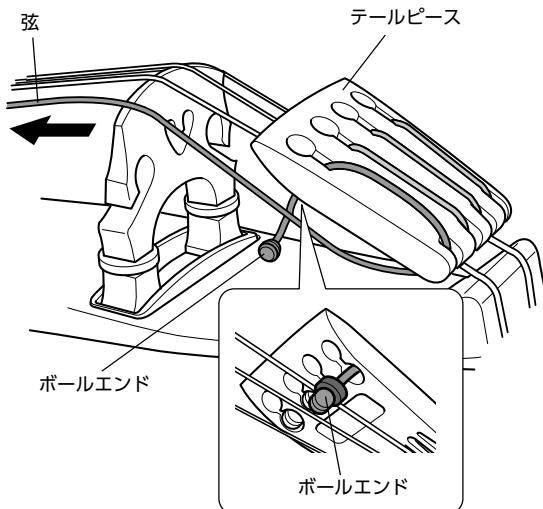
- ・弦の先は鋭利になっています。指などに刺したりしないように気を付けてください。
- 注意！
 - ・弦の交換や調整の際、顔を楽器に近づけすぎないようにしてください。不意に弦が切れて目を傷つけるなど、思わぬけがの原因となることがあります。

ご注意

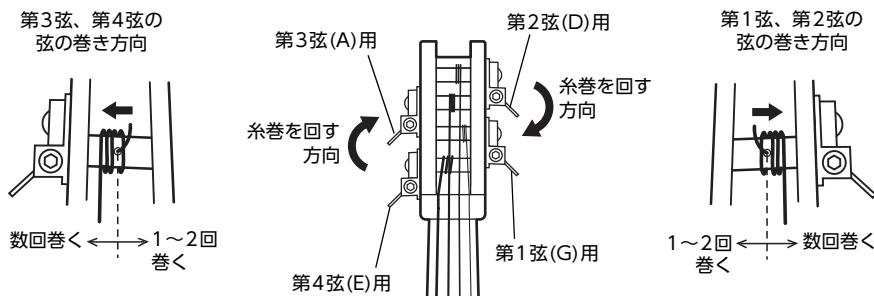
- ・弦は一度にすべて外さず、必ず一本ずつ交換してください。

[弦の巻き方]

1. 弦の端のボール(ボールエンド)をテールピースの弦穴に引っ掛けます。この時、弦穴の溝にボールエンドを確実に収めます。
* ボールエンドが弦穴よりも大きい場合は、テールピース裏側から弦を通してください。
2. 弦をテールピース表側の面ぞいにエンドピン側へ引っぱり、テールピース端の溝に引っかけてからテールピース裏側に回し、次にブリッジに向けて張っていきます。



3. 弦を糸巻きの穴に通したら、糸巻きを回し、下図のように穴の片側に1~2回巻いてから穴のもう一方の側に巻いていきます。1~2回巻く側は、第1弦(G)、第2弦(D)は向かって左側、第3弦(A)、第4弦(E)は向かって右側です。



ご注意

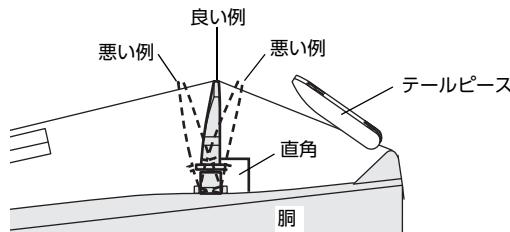
- 弦を巻く前に、駒のテールピース側の面が、駒の乗る面に対して垂直になるように立ててください。
- 弦を巻く前に、それぞれの弦が駒の溝に収まるようにセットしてください。
- 弦を巻く前に、糸倉内側の壁に弦が当たらないように、弦端の余りの長さを調整してください。弦が壁に強く当たった状態で調弦すると弦切れなどの原因となります。
- 弦を巻く際は、駒が弦に引きずられて指板の方向に倒れないように注意してください。

4. ピアノや音叉、チューナーなどの音に合わせて、糸巻きを回してチューニングします。

調弦については「調弦について」(11ページ)の注意事項をご覧ください。

ご注意

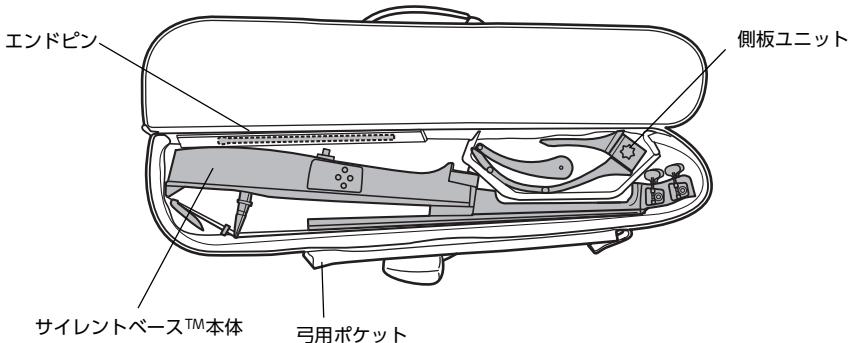
- 楽器を長時間使用しない時は、弦を少しゆるめて保管してください。
- 駒は常に駒の乗る面に対して垂直に立った状態でお使いください。傾いた状態で使用すると、駒の寿命を縮めたり音質劣化の原因となります。



ソフトケースへの収納

付属の専用ソフトケースに収納する場合は、サイレントベース™から側板ユニット、エンドピンを外し、下図のようにして分けて入れます。

- ・ エンドピンは、ケース内のマジックテープでしっかりと固定します。
- ・ 弓を収納する際は、必ず弓用のハードケースに入れた上で、ソフトケースの弓用ポケットに入れます。



ご注意

- ・ ソフトケースは、本製品を携帯して移動するためや、ホコリなどから守るために使うためのものです。駒などの各部品の安全を保障するものではありません。駒面を下にして置いたり、物を乗せたり、衝撃を与えた場合は、本製品が破損することがあります。

仕様

棹	メープル
胴	スプルース + マホガニー
指板	SLB300 PRO : エボニー SLB300 : ローズウッド
駒	メープル(高さ調整可能)
側板ユニット	ブナ+アルミ他 金属部品
糸巻	ウォームギア方式
テールピース	エボニー(リバース方式)
弦	コントラバス用弦(ボールエンドタイプ)
センサー	ピエジピックアップ
コントロール	<ul style="list-style-type: none">・ボリュームコントロールノブ・トレブルコントロールノブ・ベースコントロールノブ / バイパスボタン・ブレンドコントロールノブ /マイクタイプ切替ボタン
電源	単3形乾電池(アルカリまたはニッケル水素)×2個
電池寿命(通常連続使用時間)	アルカリ電池 : 約32時間 警告表示点滅から使用不可になるまでの時間 : 約4時間 ニッケル水素電池 : 約26時間 警告表示点滅から使用不可になるまでの時間 : 約1時間
弦長	1,040mm (41インチ)
寸法(LxWxH)	組立後寸法(側板ユニット取付、エンドピン最短状態) 1,692 × 456 × 330 mm ボディ本体寸法(側板ユニット、エンドピン共に取り外し状態) 1,392 × 122 × 230 mm 側板ユニット寸法(折畳み状態) 465 × 145 × 129 mm
質量	SLB300 PRO : 約7.0 kg SLB300 : 約6.8 kg

* 本書は、発行時点での最新仕様で説明しています。最新版は、ヤマハウェブサイトからダウンロードできます。

雅马哈乐器音响（中国）投资有限公司
上海市静安区新闸路1818号云和大厦2楼
客户服务热线：4000517700
公司网址：<http://www.yamaha.com.cn>

制造商： 雅马哈株式会社
制造商地址： 日本静冈县滨松市中区中泽町10-1
进口商： 雅马哈乐器音响（中国）投资有限公司
进口商地址： 上海市静安区新闸路1818号云和大厦2楼
原产地： 日本

Yamaha Global Site
<https://www.yamaha.com/>
Yamaha Downloads
<https://download.yamaha.com/>

Manual Development Group
© 2019 Yamaha Corporation
Published 08/2021
2021年8月 发行 R2
POTO-C0

VFA5990